



国際シンポジウム

国際化における日本語教育

ー多様化する日本語学習者とそのニーズの現状からー

開会の挨拶 山田 史郎（同志社大学 副学長・国際連携推進機構長）

基調講演

「日本語学習者のニーズに応える戦略的プログラム設計——一橋大学の日本語教育を例に——」
石黒 圭（一橋大学 国際教育センター・言語社会研究科 准教授）

「中国における日本語教育の現状と展望」
彭 広隆（北京大学 外国语学院 教授）

講演

① 「ミッドルベリー夏期日本語学校に於ける日本語教育」
小川 信夫（AKF専任、Professor of Japanese Studies, Middlebury College）

② 「韓国における日本語教育の現状と課題」
李 美淑（明知大学校 日語日文学科 教授）

③ 「台湾の高等教育機関における日本語教育の現状・問題点及び改善方策」
蘇 文郎（台湾国立政治大学 日本語文学系 教授）

パネルディスカッション

「多様化する日本語学習者とそのニーズに対応する日本語教育とは」
パネラー：石黒 圭、彭 広隆、小川 信夫、李 美淑、蘇 文郎、松本 秀輔



参加費無料

日時 2013年 **9月7日(土)**

場所 同志社大学 寧静館5階会議室

10:30～

9月3日（火）までに裏面のFAX申込書 またはE-mailにてお申し込みください。

主催：同志社大学 日本語・日本文化教育センター
 共催：AKF同志社留学生センター（Associated Kyoto Program）
 お問い合わせ：TEL 075-251-3240 E-mail ji-nbn@mail.doshisha.ac.jp

2015 年 5 月

公開講演会

四季を通じてさまざまな場所を観覧客の目に映し続ける花は日本人に、人間の美意識を子受け、花を形に与えてきました。テレビや雑誌でも頻りにこの花に日本人の趣意を説き及ぼす。文化は伝承していかないと美術家にも、花は言葉を通して、文化は花に文化花(はな)と夢の日本の華道。しずかな花びらを伝えていただきます。

日本人が愛した 花の姿

参加無料・申込不要

5/26 (火) 13:10~14:40 (3講時)

良心館 ラーニングcommons 2階
プレゼンテーションコート

講師 あしはら いちじゅ
芦田一寿氏

京都府 長岡市 華道 草道遠州宗家 貞貞斎 (本名 芦田 乾)

遠州(旧正徳遠州) 七世宗家の長男として京都に生まれ、幼少より花に親む。武蔵野美術大学空間演出デザイン科卒業後、アパレル留学、シカゴ、ニューヨーク等で数歳、帰国、1992年に草道遠州宗家として就任。

江戸中期の中期に一糸流、花道付とよはれる古典生花を平癒の現代にも華道と技術を基に忠実に継承している。

国産チャイナペーパー協力出版や二城での映画プレミア会場花装飾、NHKコマーシャル等、華道家としてのプレゼンテーション、振替でのいけばな、ファッションブランドや金業とのイベントアートと華道で花道を広く展開。

京都市内3ヵ所の直営指導教室のほか、同志社大学日本語・文化文芸教育センターにて、多くの外国人留学生や日本人学生に華道をを通じて文化・文化を伝えている。

挨拶 日本語・日本語と教育センター 所長 八木 匠

司会 日本語・日本語と教育センター 准教授 徐 海純

【お問い合わせ】 日本語・日本語と教育センター

Tel: 075-251-3240 E-mail: jp-nbu@mail.doshisha.ac.jp

2015年10月

日本語・日本文化教育センター 主催
公開講演会

日本のきもの文化

参加無料・申込不要

10/22 (木) 14:55~16:25 (4講時)

良心館 ラーニングコモンズ 2階 プレゼンテーションコート

講師 小紋屋 高田勝 主人
小紋研究家 高田啓史 氏

祖父創業の「京呉服製造」高田勝を京都高田の長男に生まれ、同志社中学・高校・大学で平旦と生計の京都人、同志社人。卒業後、京都の呉服問屋で修行の後、1989年に実家に戻り、2001年、高田勝株式会社代表取締役就任。きもの分野のうつら文化に関する研究を重ね、江戸時代の古典文様を元に高級北斎の小紋文様などを復刻。2007年、伝統の染織工芸芸術展「小紋文様」を出版。映画やTVドラマへの衣装協力や呉服指導など多数手がける。和装振興に寄与するため、現在、京都きもの振興会会長、全日本きもの振興会主催「きもの文化検定」実行委員長を務める。

【お問い合わせ】 Tel: 075-251-3240 Email: j-nb@mail.doshisha.ac.jp

2018年3月

同志社大学 日本語・日本文化教育センター主催 シンポジウム

グローバル時代に必要な マルチリンガル人材の育成

2018年 3月13日(火) 12:30~

同志社大学今出川キャンパス良心館3階 RY305号室

グローバル化の流れを受け、複数の言語の中で育つ子どもたちは増加の一途をたどっています。中等・高等教育の現場でも、このようなマルチリンガルと異なる背景をもつ学生たちの存在に目向けられるようになってきました。長年日本で育つマルチリンガルへの学校教育・言語教育と文化言語の多様な学生に対する教育とは、何となく似て非なるもの、また違うものなのでしょうか。言語学、教育学、社会学といった様々な分野の専門知識を踏まえ、ダイバーシティを包摂することの意味を、聴者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

【プログラム】

1200 受付
1230 開会挨拶 新 茂之 氏 (同志社大学 日本語・日本文化教育センター所長)
1240 基調講演 中島 和子 氏 (トロント大学名誉教授)
『グローバル時代に必要な(リ)リンガル・マルチリンガル人材の育成
ーマルチリンガルとどこが違うかー』
1400 休憩 (コーヒープレイク)
1445 パネルセッション

1. 赤松 俊彦 氏 (同志社大学 文学部 英文学科 教授)
『マルチリンガリティの重要性ーマルチリンガルとマルチリンガルの違いー』
2. 後 誠将 氏 (同志社大学 日本語・日本文化教育センター 准教授)
『在日コリアンのアイデンティティを支えるものー韓国語と日本語の観点からー』
3. 小島 祥英 氏 (慶応義塾大学 文芸文化学部 准教授)
『東海地域に暮らす学際領域の子どもたちの現状とその課題ー大学生上のワークキャンプを通してー』
4. 真崎 高子 氏 (大阪大学大学院 言語文化研究科 日本語・日本文化専攻 教授)
『日本で多言語環境を力としてマルチリンガル人材に育った大学生の成功要因ー国立大学で外国語を専攻する中国・ロシアの5名の事例研究よりー』

1650 閉会挨拶

【後 援】 京都府教育委員会 / 京都市教育委員会
【お申込み】 資料準備の限上、参加ご希望の方は3/9(金)までに同志社大学公式サイト「講演会・セミナー」ページよりお申し込みください。
「http://www.doshisha.ac.jp/event/2018/02/02/event_detail/2800.html」
【お問合せ】 同志社大学 国際教育教育院事務局 j-nb@mail.doshisha.ac.jp

2019年3月

同志社大学 シンポジウム

日本社会を生きるとは ーことばとオートノミーと社会的行為主体ー

多言語多文化状況にある日本社会では、多様なバックグラウンドを持つ人々が主体的に生活しています。このことを可能にするのがことばであり、そのことばの獲得の主体となるのがオートノミーです。シンポジウムでは、主体性における問題をこぼせばオートノミー、社会的行為主体という観点から、多言語多文化状況にある人々と共に考える機会を設けます。

2019年3月15日(金)
同志社大学 今出川キャンパス 良心館3階 RY305

12:00~12:30 受付
12:30 開会挨拶 新 茂之 氏 (同志社大学 日本語・日本文化教育センター所長)

13:40 休憩

■パネル■ 司会 八木真奈美 氏 (駿河台大学 グローバル教育センター 教授)

13:55 I 経験についての語り

- 「昔のある社会と昔のない社会を生きるー自己の再解釈を通して知る(イカルテラルな経験)ー」
中井 好男 氏 (同志社大学 日本語・日本文化教育センター 准教授)
- 「日本の社会で生きていくための武器ー日本語話者としての私と地域方言」
Katherine Thornton 氏 (連門学院大学 高等教育研究 准教授)
- 「自己受容の体験を経て、交換と贈与する先生へ」
美 志野 氏 (同志社大学 非常勤講師)

15:10 休憩 (コーヒープレイク)

15:40 II ディスカッションの視点の提起

- 「社会的行為主体としてのことばの活動とは何か」
細川 英達 氏 (早稲田大学 名誉教授)
- 「立ち入らず立ち去らず、信頼と暮らしをささげる地域社会の構築をめざして」
春原 聖一郎 氏 (公益財団法人京都日本語教育センター 京都日本語学校校長)

16:50 III ディスカッション
17:30 閉会挨拶

【お申込み】 資料準備の限上、参加ご希望の方は3/11(月)までに同志社大学公式サイト「講演会・セミナー」イベントページよりお申し込みください。 https://www.doshisha.ac.jp/event/2019/02/02/event_detail/3094.html

【お問合せ】 同志社大学 国際教育教育院事務局 j-nb@mail.doshisha.ac.jp

【主催】 同志社大学 日本語・日本文化教育センター
【共催】 科学研究基盤研究(C)「日本でも日本語教育の社会的イデオロギイをこぼす獲得の学習者サポート」

2020年1月

同志社大学 日本語・日本文化教育センター主催 シンポジウム

行定監督と語る映画の可能性 ー熊本の過去・現在・未来からー

2020.1.17 Fri. 開場 15:00 開演 13:30
同志社大学 幸徳館 地下1階 ハーディーホール

入場無料・申込不要
※当日は入場券を配布いたします。

15:30 開会の辞 同志社大学 日本語・日本文化教育センター所長 田嶋聡志 氏
13:55 基調講演「熊本と同志社」 同志社大学 名誉教授 井上謙也 氏

14:15 「熊本の過去・現在・未来」
I. 「文学と熊本ー三島由紀夫『奔馬』を中心にー」
(同志社大学 日本語・日本文化教育センター 准教授 安永真紀子 氏)
II. 「熊本というプレイスの価値をブランドで考える」
(同志社大学 名誉教授 高橋広行 氏)

14:55-16:15
映画「うつくしきひと」「うつくしきひと、サバ?」上映

16:30-17:30 パネルディスカッション
「行定監督と語る映画の可能性」
<登壇者> 行定監督、田嶋聡志 氏、高橋広行 氏、安永真紀子 氏

プロフィール
行定 龍 (映画監督)
1976年熊本県生まれ。監督として『うつくしきひと』『うつくしきひと、サバ?』など、日本映画界で活躍。2018年、『うつくしきひと、サバ?』で第40回東京国際映画祭で最優秀監督賞を受賞。2019年、『うつくしきひと、サバ?』で第41回東京国際映画祭で最優秀監督賞を受賞。2020年、『うつくしきひと、サバ?』で第42回東京国際映画祭で最優秀監督賞を受賞。

同志社大学国際教育教育院事務局
〒604-8621 京都市南区九条1丁目1番1号 同志社大学幸徳館地下1階ハーディーホール
TEL: 075-251-3240 FAX: 075-251-3241
E-mail: j-nb@mail.doshisha.ac.jp